

「いのちを支える時」
(創世記1章1節～2章3節)

牧師：原 雅幸

序) 備えて待とう、主の時を

- ・年間標語を定めた時に見えていなかったことも、主は見通しておられた。
- ・創世記冒頭は「時」がメインテーマ。時の「流れ」「リズム」「変化」

1) 「はじめに」～時の流れを創造された神～

- ・「はじめに (ベレシート)」が「ひらがな」で訳される意図：
- ・世界は、これを始めようとされた方の意志によって、ある一点の時を初めにして創造された。
- ・始まりがあり、流れがあり、終わりに向かう。⇔円環型ではない。
- ・「終わり」とはゴール (目的) のこと。「聖なる安息」がゴールの象徴。
- ・いのちの意味と目的は、創造主との交わりなしには見出せない。



2) 「夕があり、朝があった」～時のリズムを創造された神～

- ・「光」が「昼」と名付けられる⇒「明るい時」と「暗い時」のリズム
- ＊「日中 (明るい時)」は人間が目覚めて働くことのできる時間
- ＊「夜 (暗い時)」は身体を休め、眠るための時間⇔神への信頼と密接
- ・神は光を必要としない。闇の中でもみわざを行う。
- ・光は人のため、人と共に働くために創造された。夜の闇は人が神に信頼することを学ぶために残されている。私たちは眠る必要のある被造物。
- ・良い目覚めは、良い睡眠から。一日は夕から始まる。

3) 「定められた時々のため…しるしとなれ」～時の変化を創造された神～

- ・世界は季節 (昼と夜の長さのバランス) が変わるようになっている。
- ・変化のポイント (節分=定められた時々) があり、これにあわせて「祭り」が営まれた。変化をとらえることは重要なこと。
- ・神から離れ「しるし」だけに頼ると「占い」になる。
- ⇒「時を識別すること (神のくださるチャンスをつかむこと)」を身に着ける必要がある。変化を捉える→祈る→御言葉によって導きを得る。



結) いのちを支える「時」

- ・創世記の冒頭におかれた創造の叙述全体は、人が豊かないのちに生きるために、神が世界を整えていく様を語っている。
- ・「時」も目には見えないが「被造物」であり、神からの贈り物である。
- ・神の定めた流れに合わせ、リズムに従い、チャンスを捉えて生きること。

名前(_____)

① 「初」を使う熟語と、「始」を使う熟語を3つずつさがしてみましょう。

② 世界と、あなたのいのちには「はじまり(スタート)」があり「終わり(ゴール)」があります。どんな気持ちになりますか。



③ あなたは、よく眠れていますか。すっきり起きられていますか。夜遅くまで起きていたい気持ちはどこから、どうして出てくるか、考えてみましょう。

- ・ねむり【 とてもよい ・ まあまあ ・ いまいち 】
- ・おきる【 すっきり ・ まあまあ ・ いまいち 】

④ 今、季節は春から夏に向かうときです。「春のしるし」「夏のしるし」をさがしてみましょう。礼拝がおわったら、お散歩するのもいいでしょう。

春のしるし

夏のしるし



～教会クイズ (教理問答) ～

みんなで一週間
考えてみよう!

Q003 どうしたらわたしたちは、神さまを知ることができますか。

A003 わたしたは を通して

神さまを知ることができます。



□ヒント□ ヨハネ 14:6～10、ヨハネ 1:14～18、ヨハネ 4:7～12、コリント 1:21～25、ヘブル 1:1～4
□□サイ 1:15～20